

岐阜工業高校デザイン工学科の皆さんが当院を取材

9月10日(木)、岐阜工業高校デザイン工学科3年生の皆さんが、課題研究の一環として企業広告の映像制作を行うため、松波総合病院に見学をしに来ていただきました。
当日は学生の方が、当院の小林副院長に企業広告を作成するにあたり、当院の強みや大切にしていることなどを取材し、企業広告の作成時に必要な内容を確認されました。
今回の活動は、「地域と元気もりプロジェクト」として、地域と学校の結びつきを通じて、地域に根付いた一貫した教育活動を行うという趣旨のもと行われます。当院も地域の医療機関として社会貢献の一貫として協賛いたしました。



「暮らしにアロマを」をテーマに職員座談会を開催

9月14日(月)、第2回職員座談会を開催しました。部署間の枠を超えてコミュニケーションを取り、法人内に知り合いが増えることで、業務上の連絡、相談につながるようお互いのコミュニケーションを深めました。
今回、「暮らしにアロマを」をテーマに看護師の山田さんが講師を務め、アロマの効果的な使用方法や、産後のお母さんへのアロママッサージの方法などを学びました。職員間のコミュニケーションを通じて、患者さまへつながるように今後も開催し、職員同士のコミュニケーションを深めます。



10月2日(金)
「大規模災害訓練」
ご理解とご協力をお願いします。

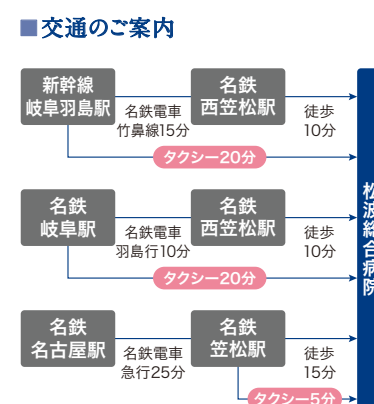
10月2日(金)、午後より北館にて「大規模災害訓練」を開催いたします。大規模な災害・事故により多数の傷病者が発生した際に、迅速な対応ができるように毎年行っております。当日は、東海地区を震源としたマグニチュード7クラスの地震を想定し実施いたします。そのため、来院される患者さまやご家族の方等に迷惑をお掛けすることになりますが、ご了承お願い申し上げます。

講演会のお知らせ

第101回 すこやかネットワーク

【日時】 2015年9月30日(水) 19:00~20:30
【場所】 松波総合病院 南館 1階MGHホール
【テーマ】 「道路交通法改正と無自覚性低血糖」
【講師】 松波総合病院 副院長 林 慎

交通・駐車場のご案内



10
2015 October
No.192

患者さまと病院をつなぐかけはし

まつなみ

【発行】 社会医療法人蘇西厚生会 松波総合病院



生存率の向上に一役、 がん検診による早期発見

もはや2人に1人は、生涯の間にかかるといわれるがん。

それほど身近な病気でありながら、がん検診を特別なものと思っていないですか。

自分のために、家族のために。定期的ながん検診を受けましょう。

がんは怖くない！
早期発見
早期治療

健診科

健診科 | Medical Examination

がんを早く見つけ、早く治療する。その第1歩が、がん検診制度

日本人の3大死亡原因は、悪性腫瘍(がん)、心疾患、肺炎です。近年がんによる死亡者が全死亡者数の約30%弱、年に約36万人以上と、増加しています。また、がんは高齢者に多い病気のため、世界に類を見ない長寿社会の日本では、2人に1人は生涯の間には一度は「がん」にかかると言われています。

がんの部位別死因では、順位の違いはありますが、肺がん、胃がん、大腸がん、が3大がんです。女性では、第5位、第8位が乳がん、子宮がんです。厚生省は肺がん、胃がん、大腸がん、乳がん、子宮がんを、がん検診による「早期発見、早期治療」の効果が得られる「5大がん」としています。一方、日本のがん患者の生存率も、年々改善しています。この

治療率の向上は、治療の進歩とともに、国、地方自治体が進めてきた、「がんをできるだけ早く見つけ、早期に治療する」という、がん検診制度が大きく寄与しています。

がん検診は、がんがあるかないかを調べる検査で、現在症状がない人が対象となります。その目的は、まだ症状が現れていない早期のがんを見つけて、早く治療し、命を救うことです。40歳以上の方は、各市町村から受診をすすめる通知が来ていると思います。ぜひ受診をして、進行が早期のうちにがんを見つけ、治療しましょう。なお、症状のある人は、健診の対象ではありません。医療機関を受診してください。がん検診で異常が見つかった場合は、その異常を確かめるため、さら

に2次検査が必要となります。

松波総合病院では、健診科ががん検診を担当しています。受診可能自治体の方は健診科に直接ご予約ください。



臨床検査部 部長
やすだ けいこ
安田 圭吾

10月は乳がんの早期発見・早期治療を促す「ピンクリボン月間」

乳がん発症のピークは、働きざかりの40代後半

乳がんは、日本人女性の12人に1人がかかるといわれ、がん部位別死亡原因では、5位ですが、女性のがん罹患率の第1位となっています。しかし、乳がんは治りにくい病気ではありません。早期に発見治療をすると90%以上が治るという結果も出ています。

発症のピーク年齢は、40代後半に発症することが多く、働きざかりの女性に多い病気です。

乳がんとは、乳がんの乳腺に発症する悪性腫瘍で、乳房のしこりや乳頭から黒い分泌物が出るなどの症状があります。また、種類は大きく分けて非浸潤がんと浸潤がんに分けられます。非浸潤がんは、基本的には転移しないため、手術のみで治る可能性の高いがんです。

浸潤がんは、転移の可能性があります。多くの場合、手術のみに頼るわけにはいかず、薬物療法（抗がん剤・ホルモン剤）、放射線治療等を用いて治療を行います。

乳がんの治療には、手術療法、薬物療法、放射線療法があり、これらを組み合わせて最大限の効果が期待できる治療を行います。基本は手術による乳房の腫瘍切除術による摘出ですが、再発リスクと術後の整容性を考慮しながら、乳房を全て切除する「全摘術」か、切除を周辺にとどめる「乳房温存療法」選択します。当院では、リンパ節切除を行わないためにアイソトープ法と色素法のセンチメンタルリンパ節生検を行っています。

乳がんの3つの診断方法

1 触診

診断の基本で、乳房全体（しこりの有無、大きさ、硬さ等）と脇の下のリンパ節の腫れを中心に診察します。

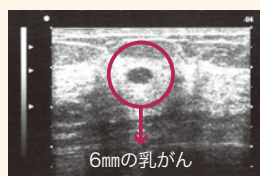
2 マンモグラフィー

触診で解らないような小さな腫瘍や石灰化像を発見するのに有効です。乳房を圧迫することで放射線の被曝量を減らし、かつ乳房の中の乳腺をより明確に透視できます。圧迫する際に多少の痛みが伴います。



3 超音波検査

触診ではみつからないような小さな腫瘍やマンモグラフィーでも見つけられないような数ミリのしこりも捉えることができる場合があります。マンモグラフィーと補助に行います。



失われた乳房を取り戻す「乳房再建」でQOL（生活の質）も改善

失われた胸の膨らみを元に戻す「乳房再建」は、乳房喪失による肉体的・精神的な苦痛を軽減し、以下のようにQOLも改善されます。

- 乳房の喪失感が解消される
- 一般の下着を着用できる
- 他人の視線が気にならなくなる。子どもや孫と入浴ができる
- パートナーと自然に接することができる

当院では、乳腺外科と形成外科が密な連携を取りながら患者さんの状態を把握し、患者さんの話をお聞きした上で、最適な再建方法を選択しています。

再建方法の1つは「人工乳房による再建」です。胸の筋肉の下にやわらかいシリコン製の袋（人工乳房）を入れ、ボリュームを出します。大きな傷を残すことがなく、手術は短時間で済みますが、長期的に破損したり変形したりする可能性があります。もう1つは、自身の皮膚、

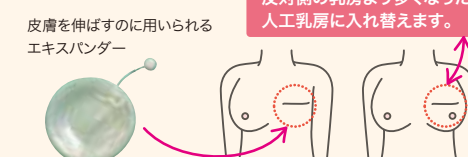
脂肪、筋肉を移植する「自家組織による再建」で、背中の組織を移植する「広背筋皮弁法」と、腹部の組織を移植する「腹直筋皮弁法」があります。

前者は人工乳房だけの再建が不可能な場合、わきの下や前頬部の凹みが著しい場合などに用います。後者は乳房切除術で多くの皮膚と筋肉の欠損を生じた場合、人工乳房に抵抗のある方に用いられます。身体的負担を使いますが、やわらかく自然な乳房を再建できます。

2種類の乳房再建方法

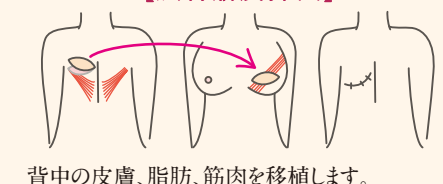
1 人工乳房による再建術

胸の筋肉の下にやわらかいシリコン製の袋（人工乳房）を入れてボリュームを出します。



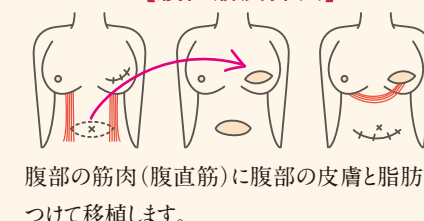
2 自家組織による再建

【広背筋皮弁法】



背中の皮膚、脂肪、筋肉を移植します。

【腹直筋皮弁法】



腹部の筋肉（腹直筋）に腹部の皮膚と脂肪をつけて移植します。

【所属学会】 日本形成外科学会
日本手外科学会
日本マイクロサージャリー学会
国際形成外科学会

日本乳房オンコプラスティック
サージャリー学会

【資格】 日本形成外科学会：認定専門医
日本手外科学会：認定専門医
乳房再建エクステンダー／
インプラント：責任医師

乳がん治療の理解を深める「町民健康セミナー」を開催

8月22日午後「第一回町民健康セミナー」を笠松中学校・室内運動場にて開催されました。社会医療法人として地域の方にもっと貢献できないかとの思いから、当院の小林副院長が中心になり、町民健康セミナーを開くことになりました。岐阜県のがんの検診率は全国的にも低く、この講演がきっかけで一人でも多くの方に検診を受けていただきたいと思います。乳がんの講演では、日本人の16人に一人が乳がんにかかり、女性のがんの死亡原因のトップになることや、早期発見により90%以上が治る結果もあり、早期発見のための検診活用を啓発しました。乳房再建では、乳がんで、乳房をとってしまった患者様への乳房再建の方法について、術前と術後の比較などを合わせて再建術をお話されました。当院は、外科と形成外科の連携により、一度の手術で乳房再建まで可能となることや、2次再建なども可能と伝えました。



講演内容
(乳がん)

乳がんのお話 ～乳腺科の立場から～
外科部長 花立 史香
乳房再建のお話 ～形成外科の立場から～
形成外科部長 北澤 健

笠松中学校で2年生201人が「医療体験授業」に参加

8月22日午前に「第2回メディカルセミナー」が笠松中学校・室内運動場にて開催されました。当日は、笠松中学校2年生201人が参加をし、「医療体験授業」を行いました。これは、同校の「夢を育むキャリア教育」の一環として、当院の小林副院長（外科）を中心に救急救命担当の医師、看護師、理学療法士らが同校に出向き、最新医療機器や救命道具などの使い方や方法を伝えました。実際に内視鏡や超音波診断なども体験してもらい、体験授業では、小林副院長が生徒に1番は、「楽しむこと」と冒頭で言われたように全ての生徒に、笑顔や驚きが室内運動場に溢れていました。

